

平成 29 度

「運営に関する計画」

大阪市立新巽中学校

平成 29 年 4 月

大阪市立新巽中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

基礎的・基本的な内容の確実な定着と「分かる喜びを実感できる授業」をめざし、授業の工夫・改善の取り組みを進めている。具体的には、生徒一人一人の理解度に応じた習熟度別指導などの多様な指導方法や I C T 機器を効果的に活用した授業方法の改善など取り組みを推進している。

また、自ら考え、判断して行動できる「自立力」と基本的な生活習慣を確立し、規律ある学校生活が実践される「自律力」を培い、保護者・地域の信託に応える学校作りを推進している。

生徒の状況や行動の変化を把握し、特性等を多面的・総合的に理解できるよう生徒指導や教育相談を重視して取り組んでいる。全教職員が協力して指導に当たるような組織的な生活指導体制の充実を推進している。

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から**【国語】**

- ・基礎的な知識・技能を養うためのプリントを活用した継続的な取り組みには一定の成果が出ていると思われる。ただ、さまざまな形式の「問い」に対して、何をどのように答えるかわからないことが無解答にもつながっていると思われ、そのような問いにどのように答えるべきか自ら考える力をつける必要がある。日頃から、さまざまな形式の発問をするなどの工夫がいる。
- ・「書くこと」は、短答式の問いにおいても無解答が多いことから、短文づくりや文学作品の一節、新聞記事や社説の書き写し、50～100 字程度の分を書く練習が必要である。さらに、読書活動や、「書く」機会を増やすため、国語化のみならず他教科や総合的な学習の時間を含めて全校で取り組む。

【数学】

- ・「数と式」「関数」の領域では、1 年生から多くの練習問題を通して基礎・基本的な学力を定着させるように授業を展開してきた。そのため、全校との差が少し縮まってきた。しかしながら、「図形」「資料の活用」の領域では全国に比べて、10～12 ポイント下回っていた。
- ・A 問題で全国との差が縮まるように基礎的な問題を繰り返すことで、正答率を上げていく。
- ・反復練習や 1 年生からの復習問題などで定着が見ることができたので、今後も継続していく。また、習熟度別少人数授業の中で個に応じた学習内容を実践し、基礎的コースのクラスでは A 問題の正答率の向上、応用的なコースでは B 問題の正答率を向上させる。
- ・放課後学習会等で、学習について積極的な生徒の育成をさらに推進していく。また、言語活動を根ざした全校的な取り組みを行う。

(2) 大阪市統一テストの結果**【国語】**

- ・カテゴリー別正答率より、書く能力に関しては市平均値と比べると下回るものの、校内平均から考えれば、市平均に近寄ることができた。しかし、言語についての知識・理解・技能の正答率が市平均より約 10% も下回っている。正答率度数分布の 20～29%、40～49% の層が市平均と比べて大きくなっている。
- ・学期当初、書く力が弱いという認識のもと記述への強化をしていた面では成果も感じた。しかし、言語についての知識・理解・技能の知識・理解の強化のため、宿題で語彙力アップのための課題実施を毎週入れていき、さらに漢字の強化に努めている。

【社会】

- ・正答率度数分布を見ると 20～30%の層が市平均と比べて約 10%多い。カテゴリ別平均正答率を見ても、すべての区分で大阪市平均正答率を下回った。
- ・大阪市の平均正答率から 6.8%を下回る結果となったところから、基礎学力の定着が重要となる。定期テスト前の演習だけでなく、1・2 年生で学習した問題について演習量を増やしていく必要がある。

【数学】

- ・各問題ごとの正答率をみると 37 問中、11 問が市の正答率を上回り、8 問が 6%以上市の正答率を下回った。全体の平均正答率は 2 点大阪市より下回った。
- ・計算問題を毎回授業ごとで実施した結果、大阪市の平均正答率を上回り成果がでた。しかし、平均正答率が 10%以上下回った問題について、その復習を中心に基礎学力の定着を努める。

【理科】

- ・全体平均が 4.1 点市平均より下回ったものの、3 年生の範囲に関しては市平均を上回る結果を得た。しかし、1.2 年の範囲は市平均を大きく下回った。
- ・授業時間外以外で課題補習時間をもうけることで、3 年の範囲に関して市の平均を上回る成果が出ている。市の平均を下回る 1.2 年の範囲は、補習や復習を行い、基礎学力の定着に努めたい。

【英語】

- ・語形・語法の知識・理解の正答率に関しては市の平均と同じであるが、その他の内容に関しては全ての項目で市の平均を下回っている。特に英作文に関しては 3 文以上の英作文について正答率が市平均より 14%以上下回っている。
- ・語彙に関する知識については今後も小テストを継続して実施し、市の平均を上回るように取り組んでいきたい。また、英作文に関しては、苦手意識のある生徒も多いため、授業のなかで自由英作文に取り組む機会をさらに増やし、生徒の苦手意識を少しでも減らせるよう努めたい。

(3)全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要（本校では、シャトルランを選択実施した）

【男子】

- ・体力合計点・長座体前屈・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げで大阪市・全国の数値が上回っている。
- ・「握力」・「上体起こし」・「20mシャトルラン」などの筋力・筋持久力・全身持久力の面で大阪市・全国の数値が下回っている。

【女子】

- ・体力合計点（47.94）では全国（49.08）より 1.14 ポイント下回った。大阪市（47.35）より 0.59 ポイント上回った。
- ・上体起こし、反復横とび、50m走においては大阪市・全国平均を上回った。

これまでの成果と今後取り組むべき課題

- ・体育の授業でのストレッチや補強運動を継続させることで全体的には体力・運動能力の向上は見られる。
- ・男女とも全身持久力（シャトルラン）の向上が、課題である。授業において、準備運動等でランニング等をさらに充実させて、心肺機能の向上を目指すようにする。

(4)大阪市英語力調査（「英検 IBA」）《結果の概要と今後の取組》

【1年】

- ・スコアを市平均と比較すると 8 点ほど低い。特に語彙・熟語・文法に関する問いの正答率が低く、読解に関する問いについてもわずかに低い。しかし、リスニングに関する問いはわずかに市平均を上回っている。今後の取り組みとしては、語彙・熟語・文法と読解を重点的に取り組み、リスニングに関してもより高いレベルを目指していきたい。

【2年】

- ・スコアを市平均と比較すると5点ほど低い。読解に関しては他の項目より%が一番市平均に近い。これは2学期から、授業の中で帯活動として“読みトレ”を行っているため上がってきていると考える。しかし、どの項目も市平均を超えていないので、今後の取り組みとしてはまんべんなくどの能力も向上を目指していきたい。

【3年】

- ・市平均スコアと本校における平均スコアを比較すると、1100点満点に対して24点の差がみられる。読解に関しては他の項目よりも市平均に対する差が少なくはなっているが、どの項目に関しても市の平均を下回っている。語彙や熟語に関しては、現在よりも小テストの回数を増やすことで大阪市の平均よりも差を縮められるようにしていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・平成29年度～32年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。
- ・平成33年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・平成29年度～32年度末の校内調査における「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多いですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を毎年70%以上にする。
- ・平成33年度全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ・平成29年度～32年度末の校内調査における「学校の図書館をよく利用している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成32年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成28年度より向上させる。
- ・平成32年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割未満の生徒を、いずれの学年も平成28年度より5ポイント減少させる。
- ・平成32年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割以上の生徒を、いずれの学年も平成28年度より5ポイント増加させる。
- ・平成32年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成28年度より増加させる。
- ・特に課題であるシャトルランの記録を平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平成28年度より5ポイント向上させる。
- ・平成31年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、平成28年度より減少させる。
- ・平成32年度における校内アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を55%以上にする。
- ・平成32年度における校内アンケートで「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合

を80%以上にする。

- ・平成32年度における校内アンケートで「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」と答える生徒の割合を60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標(小・中学校)

- ・平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ・平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ・平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・平成29年度の校内調査において、「規則正しい生活を心がけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を60%以上にする。
- ・平成29年度～32年度末の校内調査における「学校の図書館をよく利用している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- ・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)
- ・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割未満の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ・平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を、前年度より5ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、前年度よりより減少させる。
- ・平成29年度における校内アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を45%以上にする。
- ・平成29年度における校内アンケートで「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・平成29年度における校内アンケートで「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」と答える生徒の割合を50%以上にする。

【その他】

- ・平成 29 年度における校内アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を前年度より減少させる。
- ・平成 29 年度における校内アンケートで「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた生徒の割合を前年度より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立 新巽中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の校内調査において、「規則正しい生活を心がけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を60%以上にする。 平成29年度～32年度末の校内調査における「学校の図書館をよく利用している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと） 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割未満の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を、前年度より5ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。 平成29年度における校内アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を45%以上にする。 平成29年度における校内アンケートで「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒 	

<p>の割合を70%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度における校内アンケートで「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」と答える生徒の割合を50%以上にする。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度における校内アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を前年度より減少させる。 平成29年度における校内アンケートで「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた生徒の割合を前年度より向上させる。 	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>相談活動を充実させ、生徒の変化等に気づき未然防止に努める。いじめや暴力行為のない学校づくりをめざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間2回以上カウンセリング活動を実施する。また、毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、未然防止、早期発見・早期指導に努める。 生活実態調査を実施し、生徒理解に努める。 	
<p>取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>心の葛藤を通して、より良い生き方を求める態度を養う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「道徳」の研究授業や公開授業を一人年間1回以上実施する。 	
<p>取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>職業講話や職場体験を通じて、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年職業講話、2年職場体験を実施し、体験してきた事の発表を聞くことによって擬似的体験を積ませる。 	
<p>取組内容④【施策3、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>各学年で読書活動を計画的に実施し、週7回以上図書館を開館することによって、読書活動の充実を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートで「学校の図書館をよく利用している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 	
<p>取組内容⑤【施策3、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>大阪の歴史や文化について、実際に施設や史跡を訪れることで、「郷土おおさか」を愛する心を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークや調べ学習を行い、まとめた事を発表することによって、能動的な学習態度を養う。 	

<p>取組内容⑥【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 放課後学習会やサマースクールなど、自学自習を中心とした自主的な学習活動の支援や学習機会を提供する。</p> <p>指標 ・校内アンケートにおける「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。</p>	
<p>取組内容⑦【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 研究授業を年間で一人2回上（1回はアクティブラーニングを取入れる）行い教員一人一人の授業力の向上を図る。</p> <p>指標 ・研究協議をともなう研究授業を年間1回以上、また研究授業を1年間に20回以上行う。</p>	
<p>取組内容⑧【施策6、国際社会において生き抜く力の育成】 指導方法の工夫やICT機器の効果的な活用によって、授業に興味・関心を高め、分かりやすい授業を実践する。</p> <p>指標 ・校内アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を50%以上にう。</p>	
<p>取組内容⑨【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 健康に関する指導を推進するとともに、手洗いの励行などの日常指導を実施し感染症の予防に努める。</p> <p>指標 ・校内アンケートにおける「健康に気をつけている」と答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>	
<p>取組内容⑩【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 体育の授業時に「体力づくりトレーニング」を継続的にとおこなう。</p> <p>指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、昨年度を上回る項目を増やす。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	